

## 山形県村山市



山形県の中央部に位置し、東西22km、南北15kmの東西に長い形をしている。東を奥羽山脈、西を出羽丘陵に囲まれ、その中央部を最上川が流れ、流域には肥沃な土地が広がる。人口27,846人、世帯8,164戸(平成21年8月1日現在)



若狭靖町長は「むらやま徳内まつりが今年で15回目の節目を迎えるにあたり、佐藤市長、むらやま徳内まつり実行委員会の鈴木実行委員長よりご案内をいただき、総勢47名で訪問させていただきました。まつり会場での素晴らしいステージを見学し、一人ひとりが感動しました。友好都市の盟約を交わして18年が経ちましたが、村山市と盟約を交わして本当によかったと心から思った1日でした。最上徳内翁の心を汲んで、村山市と厚岸町の支援の輪が広がっていくよう、そして村山市のさらなる飛躍発展を祈念します」を感謝の言葉を述べました。



佐藤清村山市長

その後の村山市主催の歓迎レセプションでは、佐藤清村山市長が「村山市厚岸町とは毎年、物産交流や子ども交流などを行っており、厚岸町との関わりがとて深くなっています。これらの交流を通じて得ることを村山市のまちづくりに生かしていきたい。そして、今後さまざまな交流を深めながら絆を深めていきたい」とあいさつしました。

平成3年7月に村山市と友好都市の盟約を結んで以来、産業・経済、教育、文化など各分野でさまざまな形で途切れることなく交流が続いており、両市町間の友好の絆は着実に深まっています。



最上徳内記念館前で記念撮影



村山市役所を表敬訪問しました

翌日は、村山市役所を表敬訪問し、職員の方から歓迎をうけ、その後最上徳内記念館や真下慶治美術館、東沢ばら公園など、村山市内を見学しました。



ステージ上では、熱気に溢れる踊りとテンポの良い囃子が響き渡っていました

熱気に溢れる力強い踊りを観覧しました。町民号の参加者は、聞き慣れた囃子に手拍子や掛け声で出演者を応援したり、中には自然に体が動き踊り出す光景も見られました。



まつり会場ステージであいさつをする若狭靖町長

厚岸町民号で行く『むらやま徳内まつりと市内見学』  
むらやま徳内まつりが始まって15年目の節目の年であることから、町では町民からの参加者を募集し町民号を組織して、8月23日から25日にかけて村山市を訪問しました。



# 深まる友好の絆 友好都市 村山市との交流

おかげさまで15周年  
'09 むらやま徳内まつり

『北方領土探検の先覚者、最上徳内と深いつながりをもつ厚岸町と村山市は、それぞれの地域的特性を生かした個性的な街づくりと、両市町間における文化・教育、産業・経済などの各分野の交流を図り、相互の繁栄を一層推進することを誓い、ここに友好都市提携の盟約を締結する。(盟約書本文)』

厚岸町と山形県村山市は平成3年に友好都市の盟約を締結しました。なぜ、友好都市が村山市なのか。そこには、ある一人の人物が大きな縁をなっていました。

### 厚岸町と村山市を結びつけたのは『最上徳内』

最上徳内は江戸時代の北方探検家で、1785年から約20年間、厚岸場所を拠点として国後島・択捉島などの北方領土を探検し、航海の安全と北方鎮護を願い、現在の厚岸神社の前身の神明宮を建立しました。  
その最上徳内の出身地である山形県村山市から、昭和59年に最上徳内の行跡を訪ねて84人の『村山特別市民号』が厚岸に立ち寄ったのが交流の始まりです。

その後、両自治体長や議会関係者の相互訪問や、村山市での厚岸物産展の開催などで交流を深め、平成3年7月

15日、佐藤昌一郎市長をはじめ45人の市民訪問団が厚岸町を訪れ、友好都市提携盟約書の調印が行われました。

### 徳内ばやし誕生のきっかけは厚岸の囃子

村山市で行われていた村山まつりに、厚岸の祭関係者が平成6年に招待され『厚岸囃子』を披露したところ、囃子のノリの良さと迫力に感激した村山市の有志が市内各地に呼びかけて『徳内ばやし』が発足し、平成7年に第1回目『むらやま徳内まつり』が開催されました。  
3台の山車ではじまったむらやま徳内まつりは年々参加団体が増え、現在では山形県を代表する祭りとなりました。

### 15周年を迎えたむらやま徳内まつり

15周年の節目となった今年のむらやま徳内まつりは、8月21日から23日の3日間開催され、徳内ばやし共演には26団体、延べ3,500人が参加しました。また、3日間で約25万人の観客が詰めかけました。

